



能登の生き物調査速報とは？

2024年1月の能登半島地震と9月の豪雨により、能登の自然環境は大きな変化に直面しました。加えて、気温や海水温の上昇、冬季の寒波や豪雪など、気候変動の影響も年々顕著になっています。こうした環境変化の中で、生きものたちはどのように暮らしているのでしょうか。私たちは2023年から、能登半島沿岸の海を中心に、森・川・人里を含めた生物調査を続けてきました。2025年以降は全国の研究者と連携し、誰もが参加できる調査手法の確立と情報発信を通じて、生きものの記録と環境教育を進めています。

*本調査は石川県庁や環境省、そして地元漁業組合などを通して調査に必要な許可等を得て実施しています。

調査概要

<調査日程>

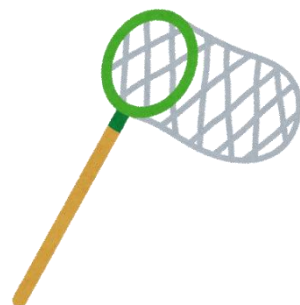
2025年7月31～8月3日

<調査メンバー> *所属と身分は調査当時のもの

豊田 賢治 (広島大学・助教)



写真1：今回の調査チーム（中学1年生）



1. アカテガニの調査

アカテガニは青森県以南に生息する半陸生の小型のカニです。能登町の沿岸には立派なサイズのアカテガニがたくさん生息しています。アカテガニは海や河口近くの樹木などの近くに巣穴を掘って生息しており、夕方から夜にかけて巣穴から出てきて木の実などを食べています。夏の夜になるとお腹に卵を抱えた母親が海岸に集まり、幼生を海に放出します。幼生たちは海を漂いながら成長と脱皮を繰り返して、小さいカニの形に成長したら河口から川へ戻り、上陸して成体と同じように半陸生の生活になります。私たちのチームはアカテガニが幼生を海に放出するタイミングをどうやって測っているのか調べています。今回の調査では震災後にアカテガニたちの数が減っていないか、生息地が変わっていないかを自分の目で確かめるために能登町の数地点を巡って調べました。今回は中学生の息子とその同級生たちも手伝ってくれてわいわいと賑やかな調査になりました。生息地には震災の爪痕がまだ残っているところがほとんどですが、ひび割れた道路の隙間をせっせと歩くアカテガニを数多く見かけることができ、きっとその数は大きく変わっていないのではないかという確証を得ることができました。彼らの魅せる不思議な生命現象についてもまたこちらで紹介できたらと思っています！

2. 深層水施設における深海プランクトン調査

能登町にある海洋深層水施設「あくあす能登」では、沖合の水深約 300 メートルから海水がくみ上げられています。このとき、目に見えないほど小さなプランクトンも一緒に運ばれてくるため、施設にはそれらを集めるフィルターが設置されています。私たちは、このフィルターにたまる深海のプランクトンを、震災前から継続して調べてきました。今回はこの連載が始まって 5 回目の調査になります。コツコツとデータが積み重なってきているのを実感します（データ分析も順調です。たぶん）。今回もいつもと同じように早朝に施設を訪れ、試料を採集しました。

<謝辞>

深海プランクトン調査にあたっては、海洋深層水施設「あくあす能登」のご協力をいただきました。本研究は、公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金（代表：豊田）、タカラ・ハーモニストファンド助成事業（代表：豊田）、ならびに 2025 年度金沢大学環日本海域環境研究センター共同研究（採択番号：25033、代表：豊田）の支援を受けて実施されました。

<問い合わせ先>

我々の活動に関するお問い合わせは以下までお願いいたします。

- ・氏名：豊田賢治（広島大学大学院統合生命科学研究科・准教授）
- ・研究室 HP: <https://sites.google.com/site/toyotadaphnia/>
- ・Email: toyotak@hiroshima-u.ac.jp